

SB40 サイドイベント傍聴報告

2014年6月4日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2014年6月4日～15日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第40回補助機関会合 (SB40) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル: NAMA 実施への資金提供を通じて得た知見 (“Lesson learned from providing finance for the implementation of NAMAs”)
- イベントの種類: サイドイベント
- 日時: 2014年6月4日 (水) 13:15-14:45
- 主催: Nature Conservation, Building and Nuclear Safety (BMUB)、The UK Department of Energy and Climate Change (DECC)
- 会場: ドイツ交通省 (Tram)
- プレゼンター: Karsten Sach 氏 (BMUB)、Ben Lyon 氏 (DECC)、Andres Prazzoli 氏 (チリ環境省)、Sudhir Sharma 氏 (UN-RISO Center)、Ned Helme 氏 (Center for Clean Air Policy : CCAP)

■ 概要

- 冒頭、自然保護原子力安全省 (BMUB) 及びエネルギー・気候変動省 (DECC) により、これまでの NAMA Facility の軌跡及び今後の資金提供の計画について発表がなされた。NAMA Facility での知見は CCAP によるグリーン気候基金 (GCF) の開発や、UNEP-RISO の活動にもフィードバックを与えており、緩和行動への新たな投資を促進する構造改革においてパイロット的な役割を果たしている。これらの経験は各国の NAMA 開発に活かすことが出来るとともに、NAMA Facility 自体をより有益な活動とするための指針となっている。

■ 発表内容

1. Karsten Sach 氏 (BMUB)

- NAMA Facility は独・英政府によって設立され、特定の目的: 「確実な削減行動であること」と「今後に繋がる学びの場となること」に沿った NAMA に対して資金提供を行っている。
- COP18 での設立以来、メキシコの住宅セクターのプロジェクトをパイロットとして実施しており、第一次募集では 47 プロジェクトの中から、チリ、コロンビア、コスタリカ、インドネシアの 4 つのプロジェクトを選択した。第二次募集は 2014 年 7 月 15 日に開始される予定である。初期の全体予算は 7 千万ユーロ。

2. Ben Lyon 氏 (DECC)

- **NAMA Facility** には多くの応募が寄せられ、世界中からの強い期待を感じた。CDM/JI で実施が困難であった農業・交通セクターのプロジェクトへの資金提供を可能とした。
- プロジェクトの実施可能性の注意深い精査と、早期からの金融セクターの参加が望ましいと考えている。
- 第二次募集ではさらに多くのプロジェクトを集めるために、募集期間を長く設定し、応募テンプレートもよりクリアに更新されている。

Q. (ヨルダン) :誰がプロジェクトの選定を行うのか。フィードバックは誰から与えられるのか。

A. (Karsten Sach氏) :独・英政府が審査を行い、落選したプロジェクトに関してもフィードバックが与えられる。

Q. (南アフリカ) :どのように実現可能性を審査するのか。

A. (NAMA Facility事務局) :プロジェクト実施・実施後の道筋をロジカルフレームワークに沿って提示して欲しい。

3. Andres Prazzoli 氏 (チリ環境省)

- チリの **NAMA** を実施するためには多くの困難が伴ったが、それらから多くの学びを得たので他国と共有することが有益であると考えている。環境省及びエネルギー省は算定に必要なデータや、公的資金の支出に関するデータを保有してなかったため、Ecofys や他のコンサルティング会社の助けを受けて収集を行った。
- **NAMA Facility** は **NAMA** に関するファンドのトップランナーであり、資金提供機会を得られたことを嬉しく思っている。

Q. (不明) :**Bankability** (銀行融資の可能性) はどのように証明すれば良いのか。

A. (NAMA Facility事務局) :民間資金とドナー資金をうまく組み合わせてプロジェクト実施可能性を高める必要がある。

4. Sudhir Sharma 氏 (UN-RISO Centre)

- **NAMA Facility** は現在の **NAMA** の議論において有益な知見をもたらしている。ただし、**NAMA Facility** の応募テンプレートは実施体制等の重要な項目をカバーしているが、プロジェクトの資金面に大きな焦点が置かれていると考えており、持続可能性等の他の項目への配慮も必要である。
- 既存の資金提供の条件に変化をもたらし、環境・低炭素プロジェクトへの投資を促進することが大きな挑戦である。

- NAMA に関するガイドラインは存在しないため、NAMA Facility の審査項目を活用することが有益であると考え。MRV に関するガイドラインをさらに詳細化すると多くの NAMA 計画立案者の参考となるだろう。

5. Ned Helme 氏 (CCAP)

- NAMA Facility は低炭素プロジェクトへの投資を促進するための構造的変化をもたらす最初の一步になったと考えており、グリーン気候基金 (GCF) の開発においても参考にしている。
- GCF においても NAMA Facility 同様に、温室効果ガス削減効果、構造的変化、持続可能性ポテンシャル、オーナーシップ、効率性等の 25 の項目においてプロポーザルの審査を行う予定であるが、それぞれの項目のプライオリティについてはまだ確定されていない。

■ 質疑応答

Q. (不明) ①NAMA Facility の設立に、民間セクターはどの程度関わっているか。②削減コストは審査項目の一つか。

A. (NAMA Facility 事務局) :GIZ、KFW とも協力して審査を行っており、削減コストは審査の条件の一つである。

A. (Karsten Sach 氏) : 国の発展度によって削減コストは違いがあるため、単純に収益性のみで審査は行っていない。

Q. (South Pole) : Bankable NAMA (銀行融資可能な NAMA) について、条件は何か。

Q. (Ecofys) : これまで採択された 4カ国の NAMA の経験から学べると思うことが多くあると思うが、何らかの形で共有してもらうことは可能か。

Q. (イクレイ) : 地方自治体が責任を負っている分野についても、採択される可能性はあるか。

A. (NAMA Facility 事務局) Bankability 以外にも審査項目は複数存在しているので、包括的なアプローチが必要である。大きな構造的な変化をもたらすことを可能とするプロジェクトを探している。4カ国における経験の共有についても今後検討する予定である。

A. (Andres Prazzoli 氏) : チリの経験では固定価格買い取り制度 (FIT) や再生可能エネルギー技術を導入した経験が不足していることが NAMA 実施の障壁となっているので、それらに対して人材育成やトレーニングが必要である。

(報告者 : OECC 金子 絵美)



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

http://www.mmechanisms.org/info/event/details_oecc_SB40report.html